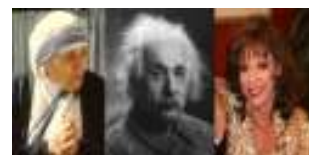


I. 導入

おはようございます。この世にはさまざまな問題がありますが、孤独は万国共通の悩みと言えるでしょう。平和な国、戦争中の国、裕福な人、貧しい人、健康な人、病中の人、など場所や状況が違って、人は孤独に悩まされます。



多くの人の賞賛を得たアインシュタインも、孤独を感じてこう言いました。「これほど世界的に著名になったのにこんなに孤独だとは不思議なものだ。」アメリカの人気ドラマの主演を演じたジョーン・コリンズも、孤独を経験していました。彼女はこう言っています。「孤独は、お金持ちの共通の悩みです。」マザー・テレサは、貧しい人たちのために人生をささげて働きましたが、貧困についてこのような見解を述べています。「この世の最大の貧困は孤独です。」



一人でいるときに孤独を感じるのは当然ですが、大勢の中にも孤独を感じることがあります。家族や友人に囲まれていながら、ひとりぼっちだと感じることもあるのです。どれだけたくさんの方が周りにいても、誰が一緒にいてくれても、孤独を消し去ることはできません。なぜなら、孤独は心の問題だからです。



孤独を感じている人は、人とのつながりを感じられず、「誰も私のことをわかってくれない」と言います。そんなふう感じたことはありませんか。私自身も、人に誤解されているように思って、孤独を感じたことがあります。そんなときは、目の前が真っ暗になって、悲しくなります。孤独のせいで、疲れやすくなったり、うつっぽくなったり、もっと深刻な状態になることもあります。



私たち人間は、社会の中で生きる生き物です。ですから、人とのつながりを必要とします。愛し愛される関係が要るのです。愛の絆でつながっていると感じると、人は人生に平安や喜び、充実感を見出せます。しかし、自分は孤立している、誤解されている、愛されていないと感じると、人は孤独を感じ、自分の殻に閉じこもってしまいます。このように感じるのは偶然のできごとではありません。神が私たちをこのように創られたのです。私たち人間を作ってくださった創造主なる神との愛の絆の中に生きるよう、私たちは創られています。ですから、そのような関係性を欠くと、必然的に孤独を感じるわけです。

聖書のはじめの数ページには、人間についてのこういった事実が明示されています。神は天地を創造された後、人をお造りになりました。アダムとエバというひとりの男とひとりの女です。最初、アダムとエバは、神との理想的な関係を保っており、美しいエデンの園で幸せに暮らしていました。神との愛の絆があり、お互いに愛し合っていました。愛に生きることを彼らが自分の意志で選んでいたからです。



愛にはもちろん決心が必要です。そして、決心をするには、自由意志が必要です。神は人間に自由意志をお与えになりました。それは、私たちが本当の愛を経験できるようにです。また、神との愛の絆、そしてお互いへの愛情を経験するためです。アダムとエバは、ひとつのことを除いては完全に自由でした。ふたりには、たったひとつの規則が与えられました。その目的は、この規則に従うことで、神との正しい関係を保つという決心が継続的なものであることを示すためでした。

残念なことに、時が経って、アダムとエバは神が与えられた唯一の規則を破ってしまいました。この不従順が神との関係を壊し、幸せな生活も壊しました。創世記 3:8 には、主に逆らった後、彼らに何が起こったかが記されています。「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、」アダムとエバが神に逆らう前は、おそらく園の中を神とともに歩いたことでしょう。しかし、もはや神にあわせる顔がなく、主から隠れたのです。

人が不従順という最初の罪を犯して以来、人類は罪によって神から離れています。神の目から見ると、人は誰でも過ちがあると聖書は教えています。その過ちを聖書は罪と呼びます。詩編 14:1-3 はこう語ります。「神を知らぬ者は心に言う『神などない』と。人々は腐敗している。忌むべき行いをする。善を行う者はいない。主は天から人の子らを見渡し、探される目覚めた人、神を求める人はいないか、と。だれもかれも背き去った。皆ともに、汚れている。善を行う者はいない。ひとりもない。」

これはずいぶん耳の痛い厳しい言葉です。けれども、正直になって考えてみれば、この言葉が真実だとわかるでしょう。良いことをする人はたくさんいますが、常に良いことしかしないし言わないという人はいません。プライドや嫉妬、怒り、情欲、無礼、偽りなどが必ずあります。これらが罪であり、罪によって私たちは神と離れ離れの状態にあります。その結果、私たちは孤独を感じたり、孤立したり、あらゆる悩みを抱えます。私たちは神との愛の絆の中に生きるよう創られました。それなのに、私たちは神から隠れようとします。それは、神にあわせる顔がないからです。

人類は罪に落ちましたが、主はご自身が創造された人をお見捨てにはなりません。主なる神がアダムとエバを園で見つけたとき、主はまず彼らの裸を覆うために丈夫な衣を作ってくださいました。罪のなかった時は、二人は恥ずかしいと思わなかったので、美しい園を裸で歩いていました。

しかし、罪は恥をもたらします。すると、その恥を隠したいという気持ちが湧きます。考えてみてください。気候がよくても、外に出かけるときは必ず服を着ます。なぜでしょう。それは、私たちが自分の不純さをわかっていて、それを隠したいと思うからです。恥ずかしいのです。



主は、アダムとエバに服を着せました。そのために動物を殺してその皮で服を作ってくださいました。そこから、罪の覆いとして動物のいけにえをささげる制度が始まりました。罪のためにいけにえをささげなければならないことで、人は罪の深刻さに気づきました。それによって、人々は行動を起こす前に考え直し、罪に対する抑止力となりました。動物のいけにえについては、旧約聖書に記載されています。その記録を調べると、もうひとつのことがわかります。それは、古代の動物のいけにえが、後に神が備えてくださる全世界の罪のための完全ないけにえの予型であることです。最初のいけにえに始まり、主は多くの預言的メッセージや予型を与え、救い主が来て全世界の罪のために偉大な犠牲を払ってくださることを示してくださいました。

ついには、来たるべき救い主が神ご自身であることが明かされました。この神は、イエス・キリストという人の形でこの世に来てくださり、私たちの罪のために十字架上で死んでくださいました。イエスは、私たちの身代わりとなって命をささげるために来てくださり、私たちの罪の代価を支払ってくださいました。それは、私たちが罪を赦され、神との関係を取り戻すためです。イエスは死んで葬られた後、三日後に死からよみがえり、死に打ち勝たれました。こうして、信じる者に永遠の命が与えられるという約束を確かなものとしてくださいました。イエスを信じると、私たちは罪からきよめられ、天での永遠の命をいただき、救われます。



ローマ 3:22-24「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」

今日のメッセージの冒頭で、孤独について話しました。孤独は、罪によって私たちが神から離れてしまっていることから来る症状に過ぎないことがわかりました。また、孤独を解決するには、私たちが創ってくださった創造主なる神との関係を取り戻さなければならないこともわかりました。イエスは私たちをご自身のもとへ招いておられます。**マタイ 11:28**で、イエスはこうおっしゃいます。「**疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。**」



II. 結び

イエス・キリストを信じる信仰による神との関係がどのように孤独の悩みを解決してくれるのでしょうか。まず、イエスがいつも私たちとともにいてくださるので、私たちはもうひとりではありません。イエスを信じるすべての人には、次のような素晴らしい約束が与えられています。**マタイ 28:20b**「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」この世では、イエスはすべての信徒の心に住まれる聖霊をとおして私たちとともにいてくださいます。そして、この世が終わるとき、終末には、イエスを信じるすべての人は天国の故郷に帰り、永遠にイエスとともにいることとなります。



イエスは私たちとともにおられます。ですから、信仰をとおして、私たちは神との深い愛の絆を味わえます。このお方は神であり、私たちを完全に知ってくださっています。ですから、誤解される心配はありません。私たちの周りで起こることも、心の中で起こっていることも、すべてご存知です。私たちの心の中で起こっていることは、良くないこともあるでしょう。しかし、私たちがイエスにそのことを打ち明け、十字架上で成し遂げられた御業を信じるなら、赦しと癒しが与えられます。イエスの愛は完全で、イエスの恵みあわれみはじゅうぶんです。私たちを見放したり、拒絶したりは決してなさいません。もし孤独を感じたら、イエスに向かって祈りをささげましょう。そうすれば慰めが得られます。イエスが私たちとともにおられますから。

次に、イエスを信じるすべての人は、神の家族の一員となります。**ヨハネ 1:12-13**「しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。」神の子である私たちは、信仰の大家族の一員です。歴史をとおして存在し、世界中のすべての国にいる家族です。私たちはどこに行ってもキリストが心の中におられます。そして、どこに行っても信仰の兄弟姉妹が近くにいます。イエスを信じて神とともに歩めば、孤独を感じる必要はなくなります。

ひとりぼっちはもういやですか。もしそうなら、イエスを信じてください。そうすれば、もうひとりではありません。イエスと日々ともに歩み、神があなたのために備えておられるご計画に従って生きましょう。そうすれば、神の臨在を感じられ、もう二度とひとりぼっちなど感じなくてすみます。イエス・キリストと愛の絆で結ばれていれば、私たちが創られた目的が果たせます。**ミカ書 6:8**「人よ、何が善であり／主が何をお前に求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。」



III. 祈りましょう